

メキシコシティにおけるストリートチルドレン の生活・労働場所の所在および決定条件

——メトロ駅周辺における実態調査に基づいて——

小 松 仁 美
丸 谷 雄 一 郎

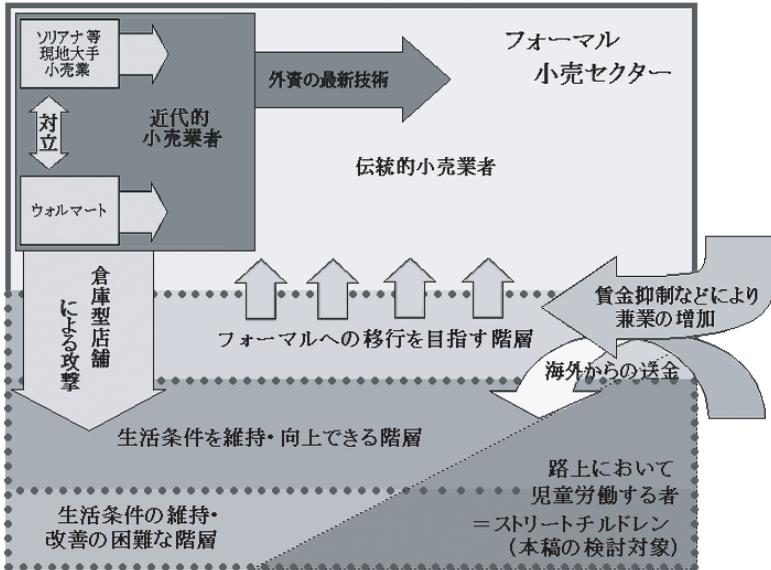
1. はじめに

メキシコ小売市場は新興市場の中で近代的小売業者の進出が相対的に進んでいる中南米の主要市場である (Reardon, Timmer, Barrett and Berdegué 2003)。近代的小売業者の代表的存在がウォルマートであり、ウォルマートのメキシコ市場進出事例は、グローバル・リテイラーの新興市場進出の成功事例として欧米で注目され (Hill 2004, Thomas and Gonzalez 2006, Durand 2007), メキシコでの売上高は同社の国際部門の約4分の1を占め、英国に次ぐ規模となっている。

筆者の一人である丸谷は、ウォルマートのメキシコ市場参入戦略及びその後の適応化戦略を示した上で、同社の進出が小売産業に及ぼした影響に関して、フォーマルセクターを中心に言及してきた(丸谷 2003, 丸谷 2005, 丸谷・大澤 2008)。しかし、ラテンアメリカ諸国を含む発展途上国の小売産業においては、図1のインフォーマル小売セクターが多くの割合を占め、彼らは今もなお低所得階層に対する小売産業の主要アクターとしての機能を担っており、低所得階層に及ぼす影響に関して、その動態を示すことなしにこの研究を進めることはできない。

こうした問題意識に基づいて、丸谷は従来のインフォーマルセクターを管理しようとするメキシコシティ当局による政策の変遷 (丸谷 2003), 彼

図1 メキシコの小売産業におけるストリートチルドレンの位置づけ



らが消費者の購買行動に与える影響（丸谷 2006, 丸谷 2007b）、彼らと近代的小売業者との競合関係（丸谷 2007a）といった研究に加えて、前稿では、丸谷のみでは実態を把握することが困難なインフォーマル小売セクターを生業とし、そこで生きていくこと以外に選択の余地がなく、生活の向上も望みがたい、インフォーマル小売セクターの中でも生活条件を向上させていくのが難しい階層に関して、ストリートチルドレンに関する研究を通じて上記の階層に接触してきた筆者の一人である小松とともに検討し、その動態の一部について示してきた（丸谷・小松 2008）。

丸谷は小松との共同研究を通じて、ストリートチルドレンがインフォーマル小売セクターに従事する階層の中から生み出され、彼ら・彼女らが路上において労働・生活しながら成長して最終的にはインフォーマル小売セクターに吸収されるあるいは、25歳前後で死亡・投獄されるというライフコースを歩むことを知り（丸谷・小松 2008, La Jornada Diario online :

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件 (index.php?section=capital&article=032nlcap), 貧困が世襲的に再生産され、その一部はさらに貧困な状況となって再生産される構造に理解を深め、メキシコのインフォーマル小売セクターについては小売市場全体を把握するためには、メキシコにおける貧困再生産の構造に関する知識・認識を深化させる必要を感じた。

本稿はこうした問題意識に基づいて、貧困再生産の構造が典型的に現れているストリートチルドレンに関する研究を共同で行っていく。小松はこれまでストリートチルドレンとその家族のライフヒストリーを中心に研究を続けてきたが、丸谷との共同研究を通じて、インフォーマル小売セクターなどに従事する都市下層にも視野を広げつつあり、現在では都市下層とストリートチルドレンの関連について研究を行っている。そこで本稿においては、ストリートチルドレンの労働・生活場所の所在およびその決定条件について、過去に実施された実態調査を踏まえて、筆者の一人である小松が行った実態調査の内容に基づいて、彼ら・彼女らの現状を検討することを通じて明らかにする。

第1にメキシコ合衆国の首都である Distrito Federal (メキシコ連邦特別区。以下、DFと省略する)におけるストリートチルドレン問題の概要をインフォーマル小売セクターとの関連において述べ、第2にストリートチルドレンの出身階層である都市下層の居住地および労働・生活場所について、過去に実施された実態調査の内容に基づいて検討し、現状把握を行うための実態調査の調査仮説を示し、第3に実態調査の結果を示し、従来から指摘されてきたストリートチルドレンが金銭物資の獲得という経済的条件や事件・事故に巻き込まれにくく安全を確保できるという社会的条件に加えて、家族とのコンタクトを取り続けやすい環境であるか否かという心理的条件によって路上における労働・生活の場所を決定していることを示していく。

2. DFにおけるストリートチルドレン問題の概要

Desarrollo Integral de la Familia (統合的家族発展省。以下、DIF と省略する)によれば、2006年時点でのメキシコにおけるストリートチルドレンの人数は国内で約10万人であり(DIF 2006)、メキシコは世界的にみても、ストリートチルドレンの多い国の1つである。首都DFは、2006年時点でストリートチルドレンの人数が約1万人であり(DIF 2004, 小松 2008)⁽¹⁾、メキシコ国内において最も多くのストリートチルドレンが存在する都市である。

DFにおけるストリートチルドレンの生活状況は国内において最も深刻な状況にある。彼ら・彼女らの大部分が栄養失調に陥っており、衛生面や安全面においても劣悪な生活環境に身を置いており、極度のドラッグ依存に陥っている。プロ・ニーニョス⁽²⁾を始めとする民間支援団体は、路上において劣悪な生活環境に身を置いているために、彼ら・彼女らが30歳になるまでに深刻な精神疾患を患う、死亡するあるいは投獄される状況にあると述べており、ストリートチルドレンはメキシコ国内の都市部、特にDFにおいて社会問題となっているとメキシコのストリートチルドレン問題について説明している。

この問題の主因は、彼ら・彼女らの親世代の不安定収入・不安定就労にある。社会学者オテロによると、2700万人の未成年は⁽³⁾、親世代がインフォーマルセクターの就労者あるいは失業中であるために、既にストリー

(1) ストリートチルドレンは、多様な人々を受け入れる寛容性が高い都市部・都市的空間において労働・生活することができる。メキシコは、都市化率が73.5% (1995年)を超えており、人口の多くは主要都市に集中するため、ストリートチルドレンの現象も人口規模が大きく、人口密度の高い主要都市において見られる。特に、全人口のおよそ23%がDFおよび主としてメキシコ州によって構成されるメトロポリタンエリア内に居住しているため、ストリートチルドレンはDFにおいて最も多く確認される。

(2) プロ・ニーニョスはFundación Pro Niños de la Calle, I. A. P. の略称である。

(3) メキシコ全体において貧困状況に置かれる2700万人の未成年は、未成年全体の71%にあたる。

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件
トチルドレンとして路上で労働・生活しているあるいは、就学児童でありながら家事手伝いなどのために通学していないなどストリートチルドレンになる危険性の高い状況に置かれている。

このうち 1700 万人は親世代の失業や低収入、不安定収入などにより、生活を維持することさえ困難な差し迫った窮乏状態に陥っており、児童労働を強いられ、極貧の状況に置かれる⁽⁴⁾。残る 1000 万人も、親世代がインフォーマルセクターの就労者であるために、登校できない、栄養失調状態に陥っている、登下校時にストリート・ベンダーとして働くなど様々な経済的な制約を受けている⁽⁵⁾。前者と後者の未成年者から、路上における労働者としてのストリートチルドレンが生み出されており、全未成年者に占めるその割合は 56% に上る (L. L. Otero 1999: 16-31)。親世代の不安定収入・不安定就労を背景としてこれら極貧および経済的制約を受ける未成年の大部分がストリートチルドレンとなっているのである。

ストリートチルドレンは、インフォーマル小売セクターに従事する階層の中から生み出されており、さらに、彼ら・彼女らの大部分がストリート・ベンダーとしてインフォーマル小売セクターに従事させられているのである。

しかし、全てのストリートチルドレンが、貧困を世襲的に受け継ぐわけではない。インフォーマル小売セクターの中でもフォーマルへの移行を目指す階層および生活条件を維持・向上できる階層から生み出された場合には、彼ら・彼女らの大部分は一時的にストリート・ベンダーとして働くことはあっても、家計を助けながら通学を維持することで、将来的には上方への社会移動を成し遂げるあるいは、親世代と同じ階層に留まる。一方、生活条件の維持・改善が困難な階層から生み出される場合には、彼ら・彼女らの大部分は恒常的にストリート・ベンダーとして働くことを余儀なく

(4) 極貧の状況に置かれる未成年者は、全未成年の 45% にあたる (L. L. Otero 1999: 16-31)。

(5) 何らかの経済的な制約を受ける未成年者は、全未成年者の 26% にあたる (L. L. Otero 1999: 16-31)。

される。彼ら・彼女らの大部分は通学できないために、将来にわたってストリート・ベンダー以外の仕事に就くことができず、上方への社会移動が望めない。さらに、彼ら・彼女らの一部分は、著しい経済的制約および家庭内暴力の被害から逃れるために路上生活に至り、下方へと社会移動する。また、彼ら・彼女らの一部分は、下方へと社会移動するだけでなく、路上においてドラッグ依存や病気・事故・事件などのために、短い人生を終えることとなる。

ストリートチルドレンは出身階層によってライフコースの異なりをみせるものの、全体的には親世代がインフォーマル小売セクターの従事者である点において共通する⁽⁶⁾。現在ではメキシコの労働市場において、フォーマル・セクターとインフォーマル・セクターとの比率がほぼ5対5になっていることから (Euromonitor 2006)、今後もストリートチルドレンは生み出され続けることが予測される。

3. DFにおけるストリートチルドレンの出身地域およびその労働・生活場所との関連

3-1. 1992年および1995年に実施された実態調査の位置付け

DFにおけるストリートチルドレンの実態調査は、メキシコにおいて彼ら・彼女らが社会問題として扱われるようになった1940年代以降、2008年現在までに2回実施されている。1回目の実態調査はCOESNICAによって1992年に行われ、2回目は1995年にDIFとUNICEFとの協働で

(6) 1992年に“Comisión Para el estudio de los Niños Callejeros (ストリートチルドレン検討委員会。以下、COESNICAと省略する)”が実施した実態調査によると、DFのストリートチルドレンは主に都市貧困層から生み出されており、その7割以上が未成年路上労働者によって占められており、未成年路上生活者は3割に満たなかった。未成年路上生活者は未成年路上労働者の一部から生み出されており、未成年路上労働者の一部が継続的な家庭内暴力、命の危険を感じるような肉体的暴力、性的暴力などの被害に遭い、路上生活に至っていた。

この調査は、DFにおけるストリートチルドレンの出身階層や生活実態などを明らかとし、彼ら・彼女らへの支援・政策拡充の契機となった。

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件行われた。

これら以外にも研究者や支援団体によって実施された実態調査はあるが、一区画ないし数市を対象として行われたものであり、DF全体を対象とするものではなかった。エレナ・アソーラ (Elena Azaola) がプロセス紙上で指摘したように (Proceso.com.mx online : index noticia.html?sec=4&nta=51875&nsec=La+Capital), 1992年および1995年に実施された実態調査を除いて、DF全体のストリートチルドレンを把握する実態調査は存在しない。

現行のストリートチルドレンに対する社会復帰支援・政策は、デイケアや定住型施設提供などがなされ多様な施設設備において進んでいる。一方、その支援・政策は仲間集団において相互扶助を利用して生活する彼ら・彼女らの実態を踏まえないままに行われているために、施設設備の稼働率の低下、支援途中での多数のドロップアウトが見受けられる。

デイケア・定住型の施設への勧誘やピックアップは、親からの養育・保護を受けず路上において遺棄されているストリートチルドレンにとって重要な生存戦略上の仲間集団からの切り離しを意味する。路上における仲間集団は、彼ら・彼女ら自身やその所持品等を守るだけでなく、彼ら・彼女らに「他者とつながっている」という安心感や情緒的な安定ももたらしめている。勧誘やピックアップはこうした彼ら・彼女らが仲間集団から得ていた安心感などを奪うことに対して細心の注意を払う必要がある一方において、安易に行われ、彼ら・彼女らは施設において見ず知らずの職員や他の子どもたちと新たな関係を築くように促されるため、新しい生活環境になじむことができず結果的に彼ら・彼女らは支援を拒み、路上に居続けることを選択することとなる。

仲間のいない不安感や新入りが受ける疎外感などの心理的な問題から、彼ら・彼女らは仲間の待つ路上に戻ってしまい、その結果、施設設備が十分に活用されない状況に陥っているのである。既存の設備の稼働率を上げ、支援・政策の充実を促すためには、ストリートチルドレンが置かれて

いる状況を把握し、かつ彼ら・彼女らのニーズを的確に汲み取る必要がある。ストリートチルドレン問題の解決にはその実態把握が必要不可欠であり、時間的・人的・金銭的費用を必要とするためその実施が容易でないものの、実態調査の早期実施が望まれる。

以下では、上記の2回の調査を中心に、次章で示される調査の前提となるストリートチルドレンの実態について検討していく。

3-2. DFにおけるストリートチルドレン出身階層と出身地域

ストリートチルドレンは、1995年に行われた実態調査によると、その5割以上がDFの出身者によって占められ、DFに隣接するメキシコ州の出身者を含めると7割以上に達する。彼ら・彼女らの8割弱は家計を助けるために路上において労働を開始し、その一部は主として家庭内暴力を理由に路上生活に至る。彼ら・彼女らは、父親や母親がいないなどという欠落家族あるいは1世帯に複数の親類や他人と同居する状況に置かれ、異母・異父兄弟を含めて兄弟の人数が多いことを特徴とする（UNICEF 1996）。

このことからストリートチルドレンは、主として都市下層から生み出されていると考えられる。都市下層は、農村部からDFに仕事を求めてやって来た先住民族・零細農民およびその子孫などによって構成される。彼ら・彼女らは、公教育から疎外され、都市において働くために必要とする職能を十分に身につけることができなかつた人々であり、そのためにインフォーマルな仕事に従事するか、最低賃金以下で正規に雇用されるか、あるいは失業状態にある人々である（丸谷・小松 2008）。

彼ら・彼女らは、不安定な労働・収入のために、不法土地開発によって形成された安価な居住地に住む。こうした居住地は都市下層の人々の集住地域となっており、その地域の開発の程度は住民の政府に対する働きかけの程度や高官との結びつきの強弱などによって異なるが、上下水道、教育機関、医療機関、娯楽施設など様々な社会的インフラが不足・欠如している（工藤 2002）。都市下層の集住地域は、主にDF中心部に位置する旧市

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件
街地のインナーシティ・エリア、DF 東部とその郊外に位置するスラム、お
よび、DF 南東部に広がる伝統的工業や農業を主産業とする地域に存在す
る（山田 1994, INEGI 2007）。

DF およびその周辺地域は比較的明確にセグリゲーションされており、
都市下層は不法土地開発によって形成された安価な居住地に住み、DF の
中心部において働くのである。都市下層の人々は、居住地と労働場所が離
れているため毎日の通勤に片道 1-2 時間程度かけ、収入のおよそ 3 分の 1
を交通費に支出する。こうした時間的・金銭的な負担により、都市下層は、
子育てに時間を割くことも、教育投資することもできない状況に置かれる。
都市下層は、こうした労働・居住環境により子どもを働き手として仕事に
駆り出し、未成年路上労働者としてのストリートチルドレンを生み出すの
である。

しかし、都市下層の大部分は、増山が指摘するようにファミリアやタン
ダの仕組みを利用し、子育てを行い、教育投資できるように工夫している
（増山 2001・2004）。都市下層の子どもの大部分はそれらの仕組みにより
路上生活者にならないものの、都市下層のなかには複雑な姻戚関係やアル
コール依存などの問題を抱える者がおり、一部の子どもは生命の危険を感
じるような肉体的暴力、家族との信頼関係を喪失してしまうような性的暴
力あるいは継続的な精神的・肉体的暴力やネグレクトなどの家庭内暴力の
被害を受ける。都市下層の子どもの一部は、家庭内暴力の被害を受けると、
相談先や避難先となるシェルターなどの福祉施設が近隣にない居住区に住
むため、路上生活に至るのである。

ストリートチルドレンは、親世代である都市下層の経済的な逼迫だけで
はなく、インフラの不足・欠如した地域に居住するなど社会的にも困窮し
た状況下で生み出されており、DF 中心部、DF 東部とその郊外および DF
南東部を主な出身地域としている。

3-3. DFにおけるストリートチルドレンの労働・生活場所の決定条件

3-3-1. ストリートチルドレンが労働・生活場所の決定する際の3条件

1992年に実施された実態調査は、DFのストリートチルドレンに関する研究を促進させ、彼ら・彼女らが生活・労働する場所の特徴やその労働・生活の形態・状況についての知見をもたらした。ストリートチルドレンは1992年の調査結果から一定の場所において労働・生活し、その労働・生活の場所は金銭物資を稼ぎやすいか否かという経済的条件によって選ばれていることが指摘された（COESNICA 1992, 角川 1994）。

しかし、研究が進むにつれて、ストリートチルドレンの労働・生活場所に関する上記のような見解には疑問が投げかけられるようになった⁽⁷⁾。DFのストリートチルドレンは一定の場所において労働・生活するとされてきたが、1992年および1995年に実施された実態調査の比較によって、彼ら・彼女らが金銭物資を稼げる場所や安全な場所を捜し求めて常に移動していることが明らかとなった（L. L. Otero 1999, P. C. Cedillo 2001:55）。また、彼ら・彼女らは労働・生活する場所を決定する際に経済的条件以外にも加味している条件があることがわかり始めた。彼ら・彼女らは経済的条件に加え、安全の確保のために他者への寛容性が高いか否かという社会的な条件や（M. Aguilar 2001, Yolia 2006）、仲間や知人がおり知っている場所であるという安心感があるか否かという心理的な条件（L. L. Otero 1999）を加味しながら労働・生活するのに適した場所を意識的・無意識的に選んでいるのである。

ストリートチルドレンは、経済的条件、社会的条件および心理的条件によってその生活・労働場所を決定するものと考えられる。しかしながら、生活・労働場所を決定する際の経済的条件・社会的条件に関しては、ストリートチルドレンに関する研究においてしばしば言及・指摘される一方、

(7) 1992年の実態調査実施以降、1995年にDIFとUNICEFが共同実施した実態調査や2005年に民間支援団体である“Yolia Niñas de la calle, A. C.”が実施した聴き取り調査などストリートチルドレンの実態を把握するための調査が実施されるようになり、新たな知見が見出されることによりDFのストリートチルドレンに関する研究は深化しつつある。

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件
心理的条件に関する言及・指摘は少ない。オテロはDFのストリートチルドレンに関して心理的条件について言及する数少ない研究者であるものの、心理的条件に関する言及はきわめて限定的である。心理的条件に関する研究は今後の一層の深化が求められる。

3-3-2. 経済的条件および社会的条件

ストリートチルドレンを取り巻く労働・生活環境は、行政による排除の力が加わる、あるいは支援の手が差し伸べられるなど、その時々的情勢によって刻々と変化する。彼ら・彼女らはその都度、経済的・社会的・心理的条件に照らし合わせて、総合的に労働・生活する場所を決定し、よりよい労働・生活場所を求めて移動しているのである。環境の変化に合わせたストリートチルドレンの労働・生活の場所の移動は、1992年および1995年の実態調査の結果を比較することによって示すことができる。

表1は⁽⁸⁾、2つの実態調査結果に基づき、ストリートチルドレンの数および彼ら・彼女らの労働・生活する場所の数をDF内に位置する16市ごとにまとめたものである。ストリートチルドレンは、表1から読み取れるようにクアウテモク(Cuauhtémoc)市において最も多く見られ、彼ら・彼女らの8割以上がDFの北部に位置する9市⁽⁹⁾に集中している。クアウテ

(8) 表1からストリートチルドレンが1992年から1995年にかけて一部の市を除いてDF全体においてその数が増加しており、その増加率はおよそ20%であることが読み取れる。この期間にストリートチルドレンは急増したと考えられる。

DFのストリートチルドレンの数は、DIFによれば、1997年が約12,000人、2000年が約14,000人、2002年と2006年が約10,000人となっている(DIF 2006, 小松 2008)。DFのストリートチルドレンは、1990年代に増加し、2000年前後をピークに、2000年代は10,000人前後で毎年一定数が生み出されているものと考えられる。

(9) 9市はクアウテモク市、ヴェニスティアノ・カランサ(Venustiano Carranza)市、グスタボ・A・マデーロ(Gustavo A. Madero)市、ミゲル・イダルゴ(Miguel Hidalgo)市、ベニート・フアレス(Benito Juárez)市、イスタパパラバ(Iztapalapa)市、アスカポサルコ(Azcapotzalco)市、コヨアカン(Coyoacán)市およびイスタカルコ(Iztacalco)市を指している。

残る7市はDF南部に位置する農村や伝統工業を中心とする地域であり、人口規模が小さく、人口密度が低いいため、ストリートチルドレンの数が少ないものと考えられる。

DFの中心部にストリートチルドレンが集中する傾向については、角川(1994)やブラス(L. H. Blas 2007)など多数の研究者が指摘している。

表1 実態調査に基づくDF市内におけるストリートチルドレンの数とその拠点の数

市名	1992年の実態調査結果		1995年の実態調査結果	
	ストリート チルドレンの数	労働・生活の 場所の数	ストリート チルドレンの数	労働・生活の 場所の数
①ミゲル・イダルゴ	983	31	1,022	94
②アスカボサルコ	670	51	A	63
③ベニート・フアレス	1,017	45	1,132	93
コヨアカン	390	34	850	59
④ベヌスティアーノ・カランサ	1,620	48	1,905	188
⑤クアウテモク	3,419	140	2,923	254
グスタボアマデーロ	1,128	67	1,578	159
イスタバラバ	1,162	27	1,742	83
⑥イスタカルコ	96	12	406	42
⑦クアヒマルバ	212	18	B	24
ミルパ・アルタ	55	3	142	20
トラワック	51	5	56	4
トラルパン	55	8	390	36
⑧マグダレーナ・コントレラス	13	2	78	16
ソチミルコ	54	7	365	34
⑨アルバロ・オブregon	246	22	281	45
合計	11,172(人)	515(箇所)	13,373(人)	1,214(箇所)

注) AとBの実数は、記入されていないが、合計すると503人となる。

(出典) UNICEF, 1996, *II Censo Niños y Niñas en situación de Calle: Ciudad de México*, México D. F.: UNICEF. に基づき小松が作成。

モク市は建設年代が古い市であり、比較的狭く入り組んだ道路が多く、ストリート・ベンダーが最も多く労働する地域である⁽¹⁰⁾。クアウテモク市を含むDF北部の9市は、人口規模が比較的大きく、公共交通網やスポーツセンターなどの施設といった都市的空間が集中しており、人々の集散の激しい地域といえる。これらの地域の特徴は路上において働くことが可能な環境および路上生活するために必要とされる他者への寛容性の高さを作り

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件出すため、経済的・社会的条件が比較的整っている。そのため、ストリートチルドレンは9市に集中すると考えられる。

しかし、ストリートチルドレンは、1992年に比べると1995年にはトラルパン (Tlalpan) 市やソチミルコ (Xochimilco) 市をはじめとするDF南部においても増加しており、9市へと集中する傾向は弱まりつつある。また、ストリートチルドレンの人数がクアウトモク市において減少する一方、その労働・生活場所の数が増加しており、ストリートチルドレンは1つの場所に固まるのではなく、少数で分散して労働・生活するようになったものと考えられる。

こうした変化は、行政がストリートチルドレンの増加に伴って行った街頭から彼ら・彼女らを排除するための一掃政策や、彼ら彼女らの支援のために行われる炊き出しの場所の増加などによると考えられる。ストリートチルドレンは、本来大人からの保護・養育を必要とする対象であるが、現実には、路上において大人からの保護・養育を受けることができないため、身体・所持品の安全確保や金銭物資の相互扶助などのために自ら集団を形成し生存を維持してきた。しかし、上記の政策や支援が集団を縮小・分散させたため、ストリートチルドレンは複数の地域に少数で点在するようになったのである。

図2は調査年別に1平方キロメートルに占めるストリートチルドレンの数を示し、図3は調査年別にストリートチルドレンの労働・生活場所の所在を示している。ストリートチルドレンは、1992年および1995年の時点において、主に北部の9市において労働・生活しているが、1992年と1995年を比較すると、その数およびその労働・生活場所がDF南東部において

(10) クアウトモク市は、ストリート・ベンダーの就労が集中し、路上において他の市に比べると稼ぎやすい。また、クアウトモク市は、建設年代の古い街であるため道幅が狭く、道路が入り組んでいる。このような道路の構造により、自動車の走行速度は遅くなり、人々の死角となる場所ができる。クアウトモク市はストリートチルドレンにとって稼ぎやすく、事故に遭いにくく、他者に発見されにくいために襲われにくいことから、その労働・生活場所を決定する際の経済的・社会的条件が最も整った市であるといえる。

図2 実態調査実施年別，1平方キロメートルに占めるストリートチルドレンの人数を示した地図

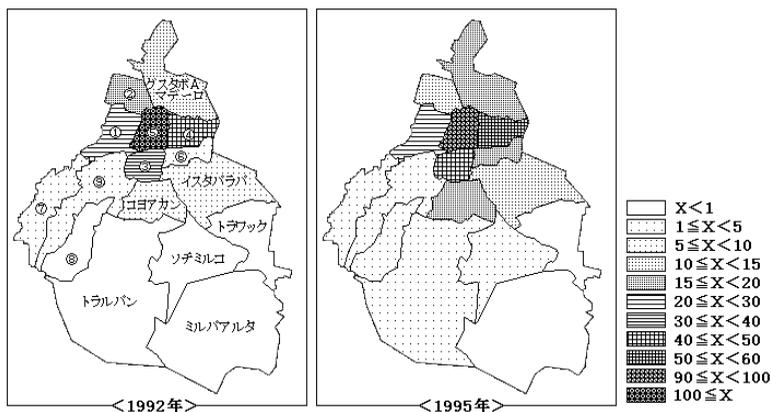
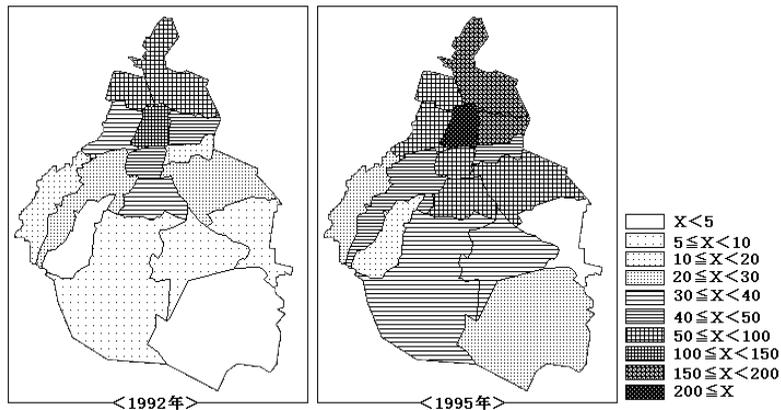


図3 調査年別にストリートチルドレンの労働・生活の拠点の所在を示した地図



増加しており，9市の中心に位置し従来の最大の労働生活場所であったク
 アウテモク市においては，その数自体も減少しており，こうした事実から
 も，従来の9市に集中する傾向が弱まっていることがわかる。

分散したストリートチルドレンは1992年から1995年の間に，DFの北

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件部9市の中でも、南東部に位置するヴェニスティアーノ・カランサ市、グスタボ A マデーロ市、イスタパラパ市、コヨアカン市およびイスタカルコ市において急増し、北東部に位置するミゲル・イダルゴ市およびアスカボサルコ市においては、横ばいないしは減少した。また、彼ら・彼女らの労働・生活場所は全体的に増加したものの、中心部に位置するクアウテモク市、東部に位置するヴェニスティアーノ・カランサ市およびグスタボ A マデーロ市において急増した。

1992年および1995年の実態調査結果は、ともにDFにおいてストリートチルドレンがストリート・ベンダーの就労場所や人目に付きにくい場所、他者への寛容性の高い場所などがあつまるクアウテモク市に集中することを示した。このことから、ストリートチルドレンは経済的・社会的条件によってその労働・生活場所を決定すると考えられる。一方、1995年の実態調査結果は1992年と比べてストリートチルドレンがその労働・生活場所をクアウテモク市以外にも広げ、分散させていることを示した。ストリートチルドレンの数の増加に伴い、行政による排除や民間団体による支援が拡充し、労働・生活可能な場所に変化がもたらされたためであると考えられる。彼ら・彼女らが排除や支援といった要因によってその労働生活場所を決定するよう促されていることから、労働・生活場所を決定する際の社会的条件が強まったものと考えられる。

3-3-3. 心理的条件

オテロは、主に低所得の家族を研究対象とする社会学者であり、メキシコにおけるストリートチルドレンの出身階層について詳しく、ストリートチルドレンの労働・生活場所の決定に関して心理的条件が加味されていることを言及する数少ない研究者である。オテロによれば、子どもはストリートチルドレンとなつてすぐにクアウテモク市などのDF中心部に移行するのではなく、家と路上の間を行き来しながら、行動範囲を徐々に広げ、DF中心部と労働・生活の範囲を広げていく(L. L. Otero 1999)⁽¹¹⁾。つまり、

ストリートチルドレンは路上において労働・生活する際にその場所を既に知っているか否かあるいは、その場所に知り合いがいるか否かといった安心感をもたらす要因、すなわち心理的条件も加味して労働・生活場所を決定するのである。

ストリートチルドレンが心理的な条件を加味している点については、図2および図3から読み取ることができる。ストリートチルドレンは、DFに満遍なく点在するのではなく、経済的・社会的条件の良いクアウトモク市に集中し、次いで、クアウトモク市を取り囲むように出身地域とクアウトモク市の中間地点に集まるのである。

特に、図2によればDFのストリートチルドレンは、クアウトモク市において減少する一方、クアウトモク市西部に位置するアスカポサルコ市やミゲル・イダルゴ市、南部のベニート・ファレス市においては急増しなかった。一方において、クアウトモク市東部に位置するヴェニスティアーノ・カランサ市やグスタボ A マデーロ市などにおいては急増していた⁽¹²⁾。

DF 東部に位置するヴェニスティアーノ・カランサ市やグスタボ A マ

(11) ストリートチルドレンは、その家族から強制的な労働や家庭内暴力の被害などを受け、家族から離れて路上において仲間とともに労働・生活するために、家族に対して不信感を募らせ、家族との紐帯が維持されていない子どもであると一般的に考えられてきた。しかし、オテロが言うように、彼ら・彼女らはすぐさま家族との紐帯をきるのではなく、路上において労働・生活するうちに、極度のドラッグ依存や暴力などの被害を受けることによる他者への不信感の蓄積などの様々な出来事が複合的に起こるなかで、その家族との連絡手段を失うあるいは、家族への愛着を薄れさせてしまうのである。

(12) ストリートチルドレンの東部に集中する傾向は、その路上における労働・生活場所がその出身階層の居住地と連動するように遷移している可能性を暗に示しており、非常に興味深い。DFのストリートチルドレンは、イスタバラバ市やクアウトモク市など主にDF内を出自としていたが、昨今では、ネツェワルコヨトル市やバジェ・デ・チャルコソリダリダ、エカテペック市などメキシコ州に東部の市を出自とする者が増加してきている。民間支援団体は、こうした出身地域の変化を受けて、支援対象地域を順次DF東部からメキシコ州へと移行させつつある。

近年、経済階層による居住のセグリゲーションが強化されつつあり(M. Murata 2007)、ストリートチルドレンの出身階層である都市下層のDF東部およびその郊外への集住傾向が強められている。公共交通機関の配置とその利用費の高騰、および、西部のサンタ・フェに新たに生み出された雇用が生み出されたことがセグリゲーションを強める要因として働いたと考えられる。

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件
デーロ市は、DF 郊外のネツァワルコヨトル (Nezahualcóyotl) 市やバジェ・
デ・チャルコ・ソリダリダ (Valle de Chalco-Solidaridad) 市、エカテペック
(Ecatepec de Morelos) 市から DF 中心部のクアウテモク市へと向かう
中継地点となる。ネツァワルコヨトルをはじめとする DF 郊外のこれらの
市は、ストリートチルドレンの出身地域である。

ストリートチルドレンの大部分が DF 郊外の彼ら・彼女らの出身地域と
DF 中心部のクアウテモク市の中に位置するヴェニスティアーノ・カラ
ンサ市やグスタボ A マデーロ市において労働・生活していることから、彼
ら・彼女らは依然として出身地域へのアクセスや家との物理的な距離を
保っていると考えられる。このことからオテロが指摘するように、スト
リートチルドレンは経済的・社会的条件のみによってその労働・生活場所
を決定するのではなく、心理的条件を加味していると考えられる。

4. メトロ駅周辺における実態調査

4-1. 調査の目的

ストリートチルドレンがクアウテモク市と出身地域を結ぶ動線上におい
て労働・生活することを以って、直ちに彼ら・彼女らが家族との紐帯を維
持していると結論付けるには早急である。ストリートチルドレンが実際に
家族との紐帯を維持しているのであれば、彼ら・彼女らはヴェニスティアー
ノ・カランサ市やグスタボ A マデーロ市の中でも、家と路上における労
働・生活場所をつなぐ移動経路上に集中すると考えられる。

そこで以下において、「ストリートチルドレンは出身地域へのアクセス
が容易な場所において労働・生活する」という調査仮説をたて、現在にお
いても彼ら・彼女らがヴェニスティアーノ・カランサ市やグスタボ A マ
デーロ市に集中しているか否か、さらには DF 東部の市の中でも家族との
コンタクトを維持しやすい場所において労働・生活しているか否かについ
て検証する。

4-2. 調査概要

本調査は、「ストリートチルドレンは家族との紐帯を維持している」という理論仮説に基づき、ストリートチルドレンが労働・生活場所を選択する際、家族とのコンタクトを維持できるか否かという条件を加味しているか否かを検証することを目的とする。

本調査における調査対象者は、メトロの駅から半径 200 メートル以内において労働・生活するストリートチルドレンである。ストリートチルドレンは、その多くが 9 市の内部に存在し (COESNICA 1992, UNICEF 1996), かつ、交通の経路をその労働・生活場所として利用し続けているためである (L. L. Otero 1999 : 37-41)⁽¹³⁾。メトロは、9 市全てを走行しており固定的な駅舎を持つ唯一の公共交通機関である。調査地域を駅から半径 200 メートル以内にしたのは、駅舎の平均間隔が約 1100 メートルであるものの、クアウテモク市を中心とする旧市街地一帯においては駅舎の間隔が 400 メートル前後と狭く、調査地域の重複を避ける必要からである。

調査対象とするストリートチルドレンは、未成年の間に路上労働・路上生活を開始させた者うち現在も路上においてストリートチルドレンの仲間集団のなかで労働・生活する 25 歳未満の者とした。成人年齢である 18 歳未満としなかったのは、ストリートチルドレンの大部分が成人後も路上において労働・生活を継続させる一方、25 歳で死亡する、投獄されるなどして路上における労働・生活を継続できない状況に置かれるためである。なお、親と共に路上において労働・生活する子ども (Niños Callejeros) は、

(13) 社会学者オテロは、ストリートチルドレンの労働・生活場所の所在について「ストリートチルドレンは、都市生活にとって不可欠な空間であり、すべての人のための空間であり、かつ、誰の空間でもない交通の経路となる場所を本拠とすることができる。彼ら・彼女らがそこを本拠として利用できるのは、特権を得た上中階層の安全を害さない、または、公共交通網の高速化と都市化を推し進めるためのインフラ整備が実施されていないときである。安全確保やインフラ整備のために、彼ら・彼女らはピックアップや一掃などによって本拠を追われ、その際には、特権階層や行政から暴力を用いられる場合がある。彼ら・彼女らはこうした危険があることを承知の上で、実質的に DF の支配者である特権階層および行政に適応しながら交通の経路を本拠として利用し続ける」と述べている (L. L. Otero 1999 : 40-1)。

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件

親の保護下にあることから、対象外とした。

本調査はストリートチルドレンの人数とその労働・生活場所の所在を確認することが必要とされるために、メトロの駅を中心として半径200メートル以内に位置する駅構内、地下鉄排気口、道路、公園、マンホールなど彼ら・彼女らが利用するすべての場所を観察し、路上労働者および路上生活者していると思われる者に、路上において労働・生活しているか否か、およびその年齢を聴き取る方法を用いて行った。

調査の実施期間は2008年8月から同年9月である⁽¹⁴⁾。なお、事前調査は2008年3月に行った。

4-3. 調査結果

本調査においてストリートチルドレンは、9市に位置する134駅中49駅の周辺にて、627人確認された。また、彼ら・彼女らの労働・生活場所の数は121箇所であった。彼ら・彼女らの労働・生活場所が周辺に存在したメトロの駅は、次の通りである。アジェンデ (Allende) 駅、バルデーラス (Balderas) 駅、ベジャス・アルテス (Bellas Artes) 駅、ボウレヴァルド・プエルト・アエーレオ (Blvd. Puerto Aéreo) 駅、ブエナヴィスタ (Buena Vista) 駅、カンデラリア (Candelaria) 駅、チャバカノ (Chabacano) 駅、チャプルテペック (Chapultepec) 駅、コンスルラード (Consulado) 駅、クアウテモク (Cuauhtémoc) 駅、デポルティーヴォ18デ・マルソ (Deportivo 18 de Marzo) 駅、エルミータ (Ermita) 駅、フライ・セルバンド (Fray Servando) 駅、ガリバルディ (Garibaldi) 駅、ゴメス・ファリーアス (Gómez Farías) 駅、ゲレーロ (Guerrero) 駅、イダルゴ (Hidalgo) 駅、インディオス・ヴェルデス (Indios Verdes) 駅、インスルヘンテス (Insurgentes) 駅、イサベル・ラ・カトリカ (Isabel la Católica) 駅、ハマイカ (Jamaica) 駅、ファレス (Juárez) 駅、ラ・ラサ (La Raza) 駅、ラ・

(14) 筆者の一人である小松が淑徳大学より研究助成金を受けて本調査を実施した。

ヴィジャ-バジリカ (La Villa-Basílica) 駅, ラグニージャ (Lagunilla) 駅, ミスコアク (Mixcoac) 駅, モレーロス (Morelos) 駅, ナティヴィータス (Nativitas) 駅, ニーニョス・エロエス (Niños Héroe) 駅, ノルマル (Normal) 駅, オブセルバトリーオ (Observatorio) 駅, パンティトラン (Pantitlán) 駅, ピノ・スアーレス (Pino Suárez) 駅, ポルターレス (Portales) 駅, ポトレロ (Potrero) 駅, レフィネリーア (Refinería) 駅, レヴォルシオン (Revolución) 駅, サルト・デル・アグア (Salto del Agua) 駅, サン・アントニオ (San Antonio) 駅, サン・コスメ (San Cosme) 駅, サン・ラサロ (San Lázaro) 駅, サンタ・アニタ (Santa Anita) 駅, タクーバ (Tacuba) 駅, タクバヤ (Tacubaya) 駅, タスケーニャ (Tasqueña) 駅, テピート (Tepito) 駅, トラテロルコ (Tlatelolco) 駅, ヴィアドゥクト (Viaducto) 駅およびソカロ (Zócalo) 駅の 49 駅であった。

4-4. 調査結果に基づく分析

4-4-1. 経済的条件および社会的条件

ストリートチルドレンが確認された 49 駅は、他の路線や乗り合いタクシーへの乗り継ぎ駅、乗降者数が多い駅、あるいは常設・仮設市場が駅周辺にある駅であるため、ストリート・ベンダーが周辺に多く見られる駅であった。ストリート・ベンダーが多い駅周辺においては、ストリートチルドレンも金銭物資を稼ぐことができ、これらの駅は彼ら・彼女らが労働・生活場所を決定する際の経済的条件が良い駅だったといえる。特に、ハマйка駅やピノ・スアーレス駅、タクバヤ駅は、常設・仮設市場が周辺にあり、ストリート・ベンダーが周辺に多数存在するため、金銭物資の調達容易であり、労働・生活場所として利用しやすいといえる。

また、他の路線や乗り合いタクシーへの乗り継ぎ駅、乗降者数が多い駅は、他者への寛容性が相対的に高く、子どもが集団で労働・生活することを許容する。そのため、安全の確保が比較的容易であり、社会的条件が整っており、ストリートチルドレンが労働・生活場所として利用しやすい。本

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件調査においてイダルゴ駅やピノ・スアーレス駅、ガリバルディ駅などにおいて、最も多くのストリートチルドレンが確認されたのは、これらの駅の経済的条件が良いだけでなく、社会的条件も良いからであると考えられる。

これらのことからストリートチルドレンは、その労働・生活場所を決定する際には経済的・社会的な条件を重要な選択基準としていると考えられ、特に、経済的条件の整う場所のなかから、社会的条件の良い場所を選択していると考えられる。

他方、DF 北部の9市において経済的・社会的な条件を兼ね備えた場所は、今回の調査でストリートチルドレンが発見されなかった85駅の中にも30駅以上存在する。一例を挙げると、バランカ・デル・ムエルト (Barranca del Muerto) 駅やミステリオス (Misterios) 駅、サン・フアン・デ・レトラーン (San Juan de Letrán) 駅などである。85駅のなかにも、他の交通機関への乗換え駅であったり、その周辺にストリート・ベンダーが多く見られる駅が含まれていたのである。このことから、ストリートチルドレンはDFの北部に位置する9市に点在する経済的・社会的な条件を兼ね備えた場所の中から、特定の場所を選択していると考えられる。

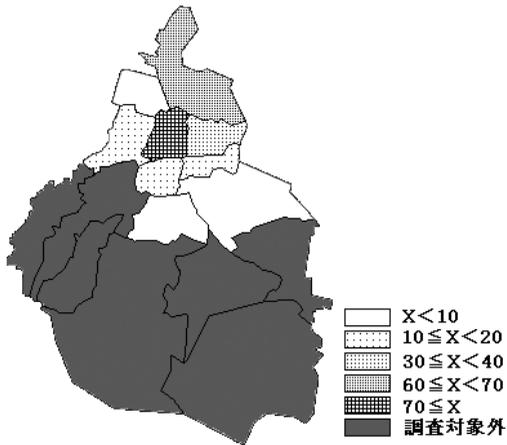
4-4-2. 心理的条件

表2は本調査において発見されたストリートチルドレンの人数およびその労働・生活場所の数を市別にまとめたものであり、図4は本調査の結果に基づき1平方キロメートルに占めるストリートチルドレンの割合を示した地図である。表2および図4からは共通して、ストリートチルドレンがクアウテモク市において最も多く、次いでグスタボAマデーロ市、ヴェニスティアーノ・カランサ市に集中していることが読み取れる⁽¹⁵⁾。ストリートチルドレンがメキシコ州に位置するネツァワルコヨトル市、バジェ・デ・チャルコ-ソリダリダ市およびエカテペック市などの彼ら・彼女らの出身地域と、DF中心部のクアウテモク市の間地点であるヴェニスティアー

表2 本調査に基づくDF北部9市におけるストリートチルドレンの数とその拠点の数

市名	ストリートチルドレンの数(人)	本拠の数(箇所)
ミゲル・イダルゴ	31	9
アスカポサルコ	3	1
ベニート・ファレス	23	7
コヨアカン	3	1
ベヌスティアーノ・カランサ	121	20
クアウトエモク	312	58
グスタボ・マデーロ	122	21
イスタパラパ	0	0
イスタカルコ	12	4
合計	627	121

図4 1平方キロメートルに占めるストリートチルドレンの割合を示した地図



メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件
ノ・カランサ市とグスタボ A マデーロ市において労働・生活する傾向を示
している。

ヴェニスティアーノ・カランサ市とグスタボ A マデーロ市は、彼ら・彼
女らの出身地域と、経済的条件・社会的条件がともに良いクアウテモク市
との中間に位置する。とはいえ、彼ら・彼女らは経済的・社会的条件を充
たしている全ての場所を労働・生活場所としているわけではない。経済
的・社会的条件を充たした駅のなかでも、心理的条件をも満たす特定の駅
において労働・生活しているとみられる。

以下ではヴェニスティアーノ・カランサ市およびグスタボ A マデーロ
市においてストリートチルドレンの労働・生活場所が発見された各駅が上
記の3条件を充たしているか否かを検討する。

ヴェニスティアーノ・カランサ市には1号線、4号線、5号線、8号線、
9号線、A号線およびB号線の合計7路線が走行しており、その駅舎の数
は合計28駅になる。このうちストリートチルドレンが労働・生活場所と
していた駅は、ボウレヴァルド・プエルト・アエーレオ駅、カンデラリア
駅、コンスラード駅、フライ・セルバンド駅、ゴメス・ファリアス駅、
ハマйка駅、モレーロス駅、パンティトラン駅およびサン・ラサロ駅の9
駅であった。これらの9駅に共通することは、1号線および4号線の駅舎
であることである⁽¹⁵⁾。1号線と4号線の沿線には、ネツァワルコヨトル市
やエカテベック市などのメキシコ州東部から乗り合いタクシーが運行され
ており、他の路線に比べて彼ら・彼女らの出身地域へのアクセスが容易で
ある。

同様に、グスタボ A マデーロ市には3号線、4号線、5号線、6号線お

(15) 各市のメトロの駅数は異なり、ミゲル・イダルゴ市には13駅、アスカボサルコ市には9駅、
ベニート・フアレス市には13駅、コヨアカン市には6駅、ヴェニスティアーノ・カランサ市
には28駅、クアウテモク市には32駅、グスタボ・A・マデーロ市には15駅、イスタバラバ
市には14駅、イスタカルコ市には5駅メトロの駅が存在する。ストリートチルドレンは、交
通の経路となる場所において労働・生活するので駅の数が多し市に集まる傾向が見られた。

(16) これらの駅のなかには、乗り継ぎ駅となっている駅があり、9号線、A号線およびB号線
に乗り入れている。

よびB号線の合計5路線が走行しており、駅舎は市内に合計15駅存在する。このうちストリートチルドレンが労働・生活場所としていた駅はデポルティーヴォ18デ・マルソ駅、インディオス・ヴェルデス駅、ラ・ラサ駅、ラ・ヴィジャー・バジリカ駅およびポトレロ駅の5駅であった。これらの5駅に共通することは、3号線および6号線の駅舎であることである⁽¹⁷⁾。3号線と6号線の沿線には、ネツァワルコヨトル市やエカテペック市行きの乗り合いタクシーが運行されており、さらに、これら5駅は、エカテペック市とDF中心部との経由地となっている駅であった⁽¹⁸⁾。

ストリートチルドレンは、数ある駅の中から、彼ら・彼女らの出身地域へのアクセスが容易な駅を選択し、その周辺において労働・生活しているのである。このことから彼ら・彼女らはその労働・生活場所を決定する際には経済的・社会的条件に加えて、家族とのコンタクトを維持できるか否かという心理的な要因を加味しているものと考えられる。ストリートチルドレンが出身地域へのアクセスひいては家族とのコンタクトを重要視している点については彼ら・彼女らの語りの中にも現れている⁽¹⁹⁾。

少女Aは、ネツァワルコヨトル出身であり、クアウテモク市において起居し、ヴェニスティアーノ・カランサ市において働く。彼女は義理の父親からの性的暴力の被害を受けて以降、その被害から逃れるために路上において生活するようになったが、家に残した兄弟や母親と常に会いたいと願っている。彼女は、セマナ・サンタやクリスマスなどの特別な祝日には

(17) これらの駅のなかには、乗り継ぎ駅となっている駅があり、5号線および6号線に乗り入れている。

(18) グスタボ・A・マデーロ市内にはナウカルパン・デ・ファレス (Naucalpan de Juárez) 市など北西部へのアクセスが充実した駅が多数存在するが、これらの駅にはストリートチルドレンが見られなかった。所得階層が比較的高い西部のナウカルパン・デ・ファレス市などからは、ストリートチルドレンがあまり生み出されていないためであると考えられる。

(19) 以下の記述は、小松が聴き取り調査を行っている約200人のストリートチルドレンの中から、メキシコ州東部に位置するDF郊外からDF東部の2市を経由してDF中心部に位置するクアウテモク市へと移行していく典型的な2人の語りに基づいている。なお、家族とのコンタクトを重要視しているストリートチルドレンは彼ら2人だけでなく、小松が聴き取り対象者とする過半数以上に上る。

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件
家の付近で兄弟に会い、路上で貯めたお金やそのお金で買ったプレゼント
を兄弟に渡している。

また、デポルティーヴォ 18 デ・マルソにおいて働く少年 B は、週のうち
4 日ほどを路上で過ごす。彼の家はネツァワルコヨトルにあるが、決して
豊かではないものの、彼が働かなくても何とか生活を維持することができ
る程度の経済力を持っている。しかし、彼は、複雑な家族関係をもち、家
に居所がないため、週のうち 4 日ほどは路上において野宿や仲間と簡易宿
泊施設などに泊まって生活しながら働き、金を貯めては家に帰っている。
彼は、日常的に肉体的な暴力を振るわれるあるいは、暴言により罵倒され
るといったことを回避するために、毎日家に帰ることはしないが、「やさし
い家族がいたら家に帰る」と常々口にしてしている。

A と B の語りからは、それぞれが家族とのコンタクトを重要視してい
る、あるいは、家族と共に生活したいと切実に望んでいる点を読み取れる。
A や B のようにストリートチルドレンの大部分は、何らかの家庭内暴力の
被害を受け、家のなかに自らの「居場所」を失い、路上において長い時間
過ごすことを余儀なくされている。ストリートチルドレンの大部分は、家
族と共にいるよりも路上にいた方が、金銭物資が稼げ、稼いだ分は自分に
投資することができ、家庭内暴力などの被害を受けない分だけ身の安全を
保て、家族に傷つけられない分だけ「マシ」であると考えている。路上に
いる方が、彼ら・彼女らの大部分にとって経済的・社会的・心理的に安定
した状況に置かれるのである。しかし、彼ら・彼女らの大部分は、経済的・
社会的・心理的に安定する状況があるならば、家族と共に過ごしたいと願っ
ている。こうした願いは、子どもなら誰しもがあたりまえに願っているこ
とであり、家族から粗野・乱暴に扱われるストリートチルドレンにとっ
ては切実な願いである。そのため、彼ら・彼女らは、少しでも家族の近く、
少しでも家族とコンタクトの取りやすい場所を意識的・無意識的に労働・
生活の場所として選択していると考えられる。

4-6. 本調査の限界

本稿において実施した調査は、乗り合いタクシーの乗降車を対象としなかった。一般的にコンビ (Combi) やペセロ (Pecero) などと呼ばれる乗り合いタクシーは、マイクロバスのような車体をしており、走行距離によって段階的に価格が上昇する料金体系となっており、日本の路線バスに類似するものの、法制度上もタクシーに分類される。

乗り合いタクシーは所定のルートが決まっていないが、通常、日常利用する乗客のためにほぼ同じルートを走行する。しかし、運転手の気分や乗客数の増減に伴い、ルートの変更が日常的に行われる。また、乗降車場を持たないため、乗客は自由に目的の場所で乗り降りすることができる。このような乗り合いタクシーの特質から、その乗降車場を特定することは非常に困難である。そのため、本稿において実施した調査は、乗り合いタクシーの乗降車場を重要な交通の経路と考えながらも、調査対象地域に含めなかった。

乗り合いタクシーの乗降車場を調査対象から除外したために、本稿においては、ラ・ソレダー (la Soledad) やカラベラ・イ・マンサーナス (Carabela y Manzanas) などストリートチルドレンの人数およびその労働・生活場所が多数存在する地域が除外されている。さらに、ストリートチルドレンを生み出している農村地区や伝統工業地域に隣接するイスタパラバ市やココアカン市の駅周辺において、彼ら・彼女らをほとんど発見できなかった。DF 南部は、DF 北部に比べてメトロの整備が進んでいない。DF 南部を出自とするストリートチルドレンの大部分は、乗り合いタクシーを用いて DF の中心部に向けてやってくるため、メトロの駅周辺ではなく乗り合いタクシーの乗降車場近辺において労働・生活するものと考えられ、DF 南東部に位置する市におけるストリートチルドレンの動態を十分に把握することができなかった。

今後は、都市下層の人口動態を通じて、乗降者数が多い乗り合いタクシーの乗降車場の特定を試み、その周辺においてストリートチルドレンが労

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件
働・生活しているか否かについて調査し、検討を加えることを課題とした
い。

5. むすびにかえて

本稿においては、ストリートチルドレンの労働・生活場所の所在および
その決定条件についての考察を深めてきた。DFのストリートチルドレン
全数を対象とした実態調査が1997年以降10年以上に渡り実施されてこな
かったために、その動態について把握されてこなかったためである。

不十分ながらも、本調査によってストリートチルドレンの労働・生活場
所に関する知見が見出された。彼ら・彼女らの労働・生活場所は、DF全体
において中心部に集中するという傾向が維持されている一方、ストリート
チルドレンの出身地域からDF中心部に向けての移動経路に当たるDF東
部の地点にも見出せたのである。

ストリートチルドレンはクアウテモク市、ヴェニスティアーノ・カラン
サ市内およびグスタボ A マデーロ市内に集中していた。ストリートチル
ドレンの出身階層である都市下層のメキシコ州東部への集住傾向およびセ
グリゲーションの強化が、彼ら・彼女らの動向に影響を及ぼしたものと考
えられる。また、ストリートチルドレンは、ヴェニスティアーノ・カラン
サ市内やグスタボ A マデーロ市内の特定の路線・駅に集中しており、それ
らは家へのアクセスの利便性の高い路線・駅であった。このことからスト
リートチルドレンは、効率的に金銭物資を得ることができるという経済的
条件や、事件や事故に巻き込まれにくいなどの社会的な条件によってのみ
路上における労働・生活場所を選択しているのではなく、家族とのコンタ
クトの取りやすさという心理的条件によっても労働・生活場所を選択して
いると考えられる。

ストリートチルドレンは、親・兄弟から離れて労働・生活し、一見する
と自立しているように見える。しかし、彼ら・彼女らは、経済的、社会的

および心理的な条件において、家族とともにいることができないような追い詰められた状況下に置かれており、路上において単独ないしは集団で労働・生活しているにすぎない。彼ら・彼女らは追い詰められた生活により、ドラッグへの極度の依存や生活していくために犯罪に手を染めるなどしているが、心底では親・兄弟と一緒に生活したいと願う、自力では自身の置かれた状況を解決することのできない社会的に弱い立場の子どもである。

現在、彼ら・彼女らの起こす犯罪や迷惑行為、社会不安などに注目が集まり、彼ら・彼女らを排除しようとする力が強められつつあるように感じる。しかし、社会的な排除を強めることはストリートチルドレンの問題の解決にはつながらない。彼ら・彼女らの親世代の経済的・社会的な困窮を緩和し、彼ら・彼女らが「子どもらしく」育つことのできる環境を整備することこそ、求められているのである。

主要参考引用文献表

- Cedric Durand, 2007, *Externalities from foreign direct investment in the Mexican retailing sector*, UK; Cambridge Journal of Economics, 32: 393-411.
- Charles W. L. Hill, 2004, *Wal-Mart's Mexican Adventure, Cases in strategic management (6thed.)*, Houghton; Houghton Mifflin.
- Comisión Para el estudio de los Niños Callejeros (COESNICA), 1992, *Ciudad de México: Estudio de los Niños Callejeros*, México D. F.: COESNICA.
- Desarrollo Integral de la Familia (DIF), 2004, Programa de Prevención y Atención a Niñas, Niños y Jóvenes en Situación de Calle "De la Calle a la Vida" Marco General de Operación, México: DIF.
- , 2006, *"De la calle a la Vida en el Distrito Federal"*, México, México D. F.: DIF.
- Douglas E. Thomas and Fernan Gonzalez, 2006, *Wal-Mart Mexico-2005, Strategic Management Cases (11th ed.)*, Pearson Prentice Hall. (= 2007, 平野雅仁訳「ウォルマート・メキシコ社 2005 年」『経営戦略ケース集』中

央経済社.)

- Instituto Nacional de Estadística Geografía e Informática (INEGI), 2007, *Anuario Estadístico Distrito Federal Edición 2007*, México D. F.: INEGI.
- 角川雅樹, 1994, 「心理的視点から見たメキシコの子どもの実態」角川雅樹・奥山恭子編『ラテンアメリカ子どもと社会』新評論, 213-38.
- 小松仁美, 2008, 「『貧困の文化』の視点からみるストリートチルドレン問題—現在のメキシコ連邦特別区 (DF) の事例研究より」『淑徳大学大学院総合福祉研究科研究紀要』15: 21-140.
- 工藤律子, 2002, 『仲間と誇りと夢と』JULA 出版局.
- Leticia Hernández Blas, 2007, *Educación Vial desde la Perspectiva del Trabajo Social. “Mujeres y Niños que Utilizan el Cruce Av. Reforma y la calle Francisco González Bocanegra”, en la Delegación Cuauhtémoc, México, DF.*, México D. F.: UNAM.
- Louis Wirth, 1938, *Urbanism as a Way of Life*, Chicago: American Journal of Sociology, 44: 1-24. (= 1978, 高橋勇悦訳「生活様式としてのアーバニズム」鈴木広編『都市化の社会学 [増補]』誠信書房, 127-47.)
- Luis Leñero Otero, 1999, *Los Niños en la Calle y de la Calle: Problemática y Estrategias para Abordarla, México*, México D. F.: Academia Mexicana de Derechos Humanos.
- Maria Anastasia Aguilar Perales Ramirez Gonzalez Nelly, 2001, *Estudio Critico de Tres Programas de Instituciones que Brindan Atención a los Niños de la Calle, en la Calle y Callejeros para Analizar si Cubren las Necesidades Integrales de los Niños*, México D. F.: UNAM.
- 丸谷雄一郎, 2003, 『変貌するメキシコ小売産業 経済開放政策とウォルマートの進出』白桃書房.
- , 2005, 「ウォルマートの進出により変貌するメキシコの北部小売産業」『愛知経営論集』152: 1-25.
- , 2006, 「メキシコにおける消費者購買行動の変化」『愛知経営論集』153: 93-114.
- , 2007a, 「メキシコ・テオティワカン地区のウォルマートを訪れて」『ラテンアメリカ時報』50-1: 36-8.
- , 2007b, 「経済グローバル化により変化するメキシコ低所得階層の消費購買行動」『愛知経営論集』156: 69-87.

- , 2009 予定, 『ラテンアメリカ経済を読む』創成社新書.
- 丸谷雄一郎・大澤武史, 2008, 『ウォルマートの新興市場参入戦略 中南米で存在感を増すグローバル・リテイラー』芙蓉書房出版.
- 丸谷雄一郎・小松仁美, 2008, 「メキシコ合衆国におけるストリート・ベンダーに関する一考察—生活条件を向上させていくのが難しい階層のライフヒストリーから」『愛知大学国際問題研究所紀要』第 132 号: 73-99.
- Masanori Murata Okita, 2007, *Sistemas de transporte y su impacto en la estructura urbana de las ciudades de México y Tokyo en el periodo de 1980 al año 2000*, México D. F.: UNAM.
- 増山久美, 2001, 「メキシコ市南東部の子どもたち—「下層」における事例研究」『ラテンアメリカ研究年報』21: 6186.
- , 2004, 「メキシコ市「大衆地区」における近住拡大家族」『家族社会学研究』16(1): 7182.
- Pompeyo Campos Cedillo, 2001, *Los Niños en la Situación de Calle en la Ciudad de México, Causa y Alternativas de Solución*, México D. F.: UNAM.
- Thomas Reardon, C. Peter Timmer, Christopher B. Barrett, and Julio Berdegué 2003, *The Rise of Supermarkets in Africa, Asia and Latin America*, American Journal of Agricultural Economics, Vol. 85: 1140-6.
- UNICEF, 1996, *II Censo Niños y Niñas en situación de Calle: Ciudad de México*, México D. F.: UNICEF.
- 山田睦男他, 1994 年, 『ラテンアメリカの巨大都市—第三世界の現代文明』二宮書店.
- Yolia Niñas de la calle, A. C., 2006, *Diferencias entre Niños y Niñas En Situación De Calle Del Distrito Federal: Una Aproximación Cualitativa, la ciudad de México*, México D. F.: Editorial Ralfvih, S. A. deC. V..

La JornadaDiario

“En la ciudad de México hay 20 mil niños en situación de abandono: comisión de la ALDF: Siete por ciento de ellos viven en coladeras o lotes baldíos, advierte su presidente”

<http://www.jornada.unam.mx/2007/06/26/index.php?section=capital&article=032n1cap> (2008/10/01)

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件

Proceso. com. mx

“Se estima que unos 20 mil menores padecen situación de calle”

<http://www.proceso.com.mx/noticia.html?sec=4&nta=51875&nsec=>
La+Capital (2008/11/04)

Summary

Análisis dinámico sobre los niños en y de la calle actual en México D. F.

—por una investigación en derredor del METRO sobre donde se pertenesen

**Hitomi KOMATSU
Yuichiro MARUYA**

En México e/u en Latin America, el sector informal minorista es relativamente muy fuerte en sector minorista. Por lo tanto, hay que entender el sector informal si quieren entender sector minorista. Maruya y Komatsu empesaron estudiarlo y investigarlo en equipo, Maruya llegó a tener interés sobre sector popular y la vida de ellos, aún niños de calle. La gente del sector popular trabaja en el labor de informal, vive en la colonia popular donde infraestructura falta ni escasea, y luego la mayoría de ella hereda la pobreza entre familia como el ciclo. De la ella, los niños en la situación de la calle surgen.

En este estudio tratamos sobre los niños en y de la calle, Komatsu hizo investigación en derredor del 137 estaciones de METRO para poner domicilio donde los niños se pertenesen en clara. Según el resulted los niños se pertenesen un lugar donde está entre casa suya y Centro de la cuidad. Es decir los niños buscan un lugar donde pueden mantener contactos y relaciones con su familia.

Hasta ahora se dice que los niños buscan un lugar donde pueden ganar dinero o/y donde hay más seguridad. No negamos que la teoría

メキシコシティにおけるストリートチルドレンの生活・労働場所の所在および決定条件 establecida es correcta, sin embargo acentuamos los niños buscan un lugar por motivos que quieren estar más cerca de su familia.

Los niños de calle son sufridos y abandonados, pero son niños normales. El problema de ellos es que el sector informal es relativamente muy fuerte en México y que el sector popular continua regenerando los niños de calle. Los niños trabajan y viven en la calle por causa de la sistema regeneración pobreza. Es urgentemente necesario que reforme esta sistema.